

10 / 19

生活と環境 全国大会 in 福島

第 62 回 生活と環境全国大会（一般財団法人 日本環境センター 主催）がお隣の福島県にて開催されました。弊社からは小林・菅野が参加、その様子をご紹介します。

廃棄物処理における「循環」と「共生」

メインとなるホール会場では、『廃棄物処理における「循環」と「共生」』をテーマに掲げ、廃棄物やリサイクル対策、環境保全などについて多くの講演・発表がありました。

今回は震災時の放射性物質に悩まされた福島県が開催地ということもあり、放射性物質にまつわる廃棄物処理の現状や対策、各種災害に対する最新の取り組みなど、平成 23 年の東日本大震災を意識した内容が多かったように思えます。

- 発表の中では福島県の現状について触れられていました。
- ・空間線量の平均値は事故当時と比べ 70%以上減少している
 - ・除染作業は道路や公共施設、農地においてはほぼ完了している
 - ・放射性物質汚染廃棄物の中間貯蔵場所の確保や最終処分の問題
 - ・新たに避難解除される地域における害獣の駆除・処分の問題

など、現在までの取り組みの中で改善している点をアピールしている反面、解決すべき課題が多く残っていると述べています。

東日本大震災以後、だいぶ時間が経ったと思われますが、当時は存在しなかった(意識しなかった)問題が、時間が経つにつれ浮き彫りになっている印象を受けました。既存の問題と新たな問題、両方を相手取することは難しいかもしれませんが「一つずつ確実に解決していく他ない」という決意を感じさせる内容でした。

生活環境の招かれざる虫たち

別の会場でも、それぞれのテーマに沿った講座が開かれていました。その中の一つでは、「生活環境の招かれざる虫たち」という表題の下、様々な「虫」をテーマとした話を聞きました。

印象に残ったのは「パンケーキシンドローム」についての講演です。「パンケーキシンドローム」とはいわゆる「ダニ」のアレルギーのことを指し、「ダニ」が含まれた（混入した）食物を食べてしまい発症するものです。小麦粉などを原料とした粉ものの製品にダニが混入していることが多く、米国では「パンケーキ粉」を媒介とした発症例が多いことから、この名称がついたそうです。名前だけ聞くとダニが関わっているとは思いません…。

日本国内での発症例や、国内で媒介となりやすい食品などが紹介されていましたが、本講座で初めて知る事実が多く、話を聞いて大きな衝撃を受けました。

Pick up 1 会場にて

会場では様々な関係資料やパンフレットを配布していましたが、放射性物質関連のパンフレットが多かったように思います。収集できたものだけで 6 冊分。放射性物質汚染の風評からの脱却を目指す福島だからこそこの施策のように感じました。



放射性物質汚染廃棄物 Pick up 2



除去土壌やがれき類などの放射性物質汚染廃棄物の中間貯蔵場所については、足りない状況が続いています。福島県内にも複数の貯蔵施設がありますが、全てを受け入れるまでには至りません。削り取った土壌を、その土地の深くにそのまま埋めている公共施設や家屋もあり、早急な解決が求められている問題の一つです。

Pick up 3 浮上する新たな問題

除染を進めるなか新たな問題が浮上しており、その一つが避難解除地域の害獣駆除です。長年人が立ち入っていない地域では、イノシシやハクビシン、アライグマといった獣が繁殖している場合があるため、それらの駆除を行わなければなりません。しかしイノシシくらいの大きさの獣になると、焼却施設にそのまま入れてもうまく燃焼しないそうです。そのため現場での解体が必要となり、非常に大変な作業になるとのこと。このような「蓋を開けて初めて気づく」問題が多いのでは？と感じます。

アレルギーとしてのダニ Pick up 4



コナヒョウヒダニ、ヤケヒョウヒダニといったダニを口徑摂取することでアナフィラシキショックが起き、呼吸困難などに陥る場合もあります。

原因物はダニのフンのほか、ダニ本体も含まれます。ここが厄介なところで、ダニの生死に関わらずアレルギーとなってしまうため、一度ダニが増殖してしまうと、爆発的にアレルギーも増加してしまいます。2 か月で 60 倍に増えたというデータも…。

Pick up 5 日本での媒介食品 No.1 は…

日本での媒介食品は圧倒的に「お好み焼き粉」だそうです。1g に 2 万匹以上確認された例も…。ちなみにダニは食品の匂いに惹きつけられるため、一度開封してしまうと、チャックがついていようがクリップで密封しようが、袋の口についたわずかな食品の匂いをキャッチして集まってしまうとか。食品に入ってしまうと一気に増殖するため、危険が伴います。対策は「開けたらできるだけ早く使い切る」とのことです。



鈴木工業 株式会社 様 視察 ～産業廃棄物 処理・処分場 視察活動～

弊社では、自社廃棄物の処理・処分を依頼している処理・処分場様へ定期的に訪問・視察する活動を実施しています。自社の廃棄物が適正に処理されていることの確認と共に、廃棄物処分の実情や技術に触れ、自社の活動に役立てる目的があります。

今年度は10月に「鈴木工業 株式会社」様(宮城県仙台市)を視察し、廃棄物の処分の過程を見学しました。鈴木工業様は受け入れの8割が仙台市の廃棄物という、地域に根差した処分場様です。一方で一部県外からの廃棄物も受け入れており、弊社も主に汚泥の処分でお世話になっております。

燃焼炉などの施設の自社整備や自社分析室による水質管理など、自社での設備運営・管理に非常に積極的な印象を受けました。また行政との密なやり取りを確立している点や、周辺地域に対する取り組みからは、地域を意識した運営を心掛けていることが強く伝わってきました。様々なことに積極的に挑戦していくパワフルな運営形態に、弊社メンバーも感銘を受けました。



毎年恒例芋煮会！

食欲の秋 到来！
今年も芋煮会を開催しました。



今年は「食べる前に運動！」とのことで芋煮会前にホットヨガの体験会を行いました。約60分程度のプログラムでしたが、程よく汗が出るような、気持ちのいい運動でした。芋煮会の頃には、早速効果が出てきたのか、体の節々に痛みを感じる人も…。(笑)



今年は芋煮のほかにBBQ、刺身、フルーツと盛沢山の内容。お子さんを連れての参加も多く、にぎやかな会になりました。Bは芋煮をカレーうどんにし、最後までおいしくいただきました。



芋煮会中になんとTV局の取材を受けました！突然の来訪、TVカメラが回る中、若干緊張気味にインタビューに答えるネクストメンバーでした。11/24、NHK「東北小さな旅」上でその様子が写るかも…。

社員コラム Vol.14

小椋景子の断捨離のすすめ

今年も早いもので、紅葉の山々が美しい季節になりました。もうすぐ年末の大掃除か～。「日常的に整理整頓や清掃をきちんとやっておけば大掃除なんかしなくてもいいのに」と毎年恒例、自分で反省をする季節でもあります。

ここ数年、『捨てる技術』、『こんまりのときめき片付け術』など物を少なくして片付けることがブームになっています。私もその影響を強く受け、最近では捨てるに捨てまくっている今日この頃です。ここで活用しているのが「断捨離」の考え方です。

断捨離

は、家に入ってくる不要な物を断つこと。

捨は、家にあるけれど使われていない、置いてあるだけの物を捨てること。

離は、物に囲まれた生活や、物を持ち続ける執着から離れること。

断捨離のコツは、何を捨てるかではなく、何を残すか(「今の自分に必要な物は何か)に着目すること。また、断捨離は「片付け術」を学ぶのではなく「片づけられない原因や散らかさないための考え方」を身につけることだそうで、それは物だけではなく、あらゆる考え方や仕事の仕方にも生かされるそうです。

さらにその効果として、身の回りのあらゆることが整理され、「運気が上がる!」「自由な時間が増える!」「健康になる!」「お金が貯まる!」など、たくさんハッピーなことが起きる!!

らしいです…。私も実践してみると、探し物が見つかったり、あぶく銭が湧いてきたりとラッキーなことが…。(笑)

空間的にも精神的にも清々しくなれる断捨離、皆さんも年末に向けて試してみたいはかがでしようか。Let's 断捨離!!



ネクスト環境のつば

今年は地元福島での環境大会とのことで、張り切って参加してきました。震災以後それなりに時間が経ち、放射性物質の話題も薄れてきた今日この頃ですが、福島では除染をはじめ、各種対策・政策が今でも動いています。

今回の発表を聞き、改めて大変な事故であったと感じています。しかし一歩一歩着実に復興は進んでいますので、今の福島をぜひ見てもらいたいと思います。機会があればぜひお越しください。



米沢市マスコットC かねたん

ネクスト環境コンサルタント株式会社

〒992-0119 山形県米沢市アルカディア 1-808-17

TEL 0238-29-0025 FAX 0238-29-0015

E-mail info@next-enviro.co.jp

HP <https://next-enviro.co.jp>

NKC 通信に関するお問合せや、郵送停止のご希望がございましたら、上記までお知らせください。